

令和7年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。

・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(理科) 教科主任名 中川 徹

★9月1日(月)までに入力してください。

9

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜○成果 ▲課題＞

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	まとめ
知識・技能	1年	○1学期の平均達成率は69.8%であった。基本用語は概ね理解することができている。 ▲ガスバーナーの正しい手順を理解し、一人で点火・消火することが課題である。	実験を今後実施していく中で、器具に触れさせる機会を増やし、慣れさせていく。	1年			
	2年	○1学期の平均達成率は64.8%であった。基本用語や実験方法については、概ね理解することができた。 ▲消化酵素の学習に苦手意識をもつ生徒がみられる。	生徒の興味・関心を引き付ける話題から考察させ、法則やきまりを自分の力で見付ける経験を増やす。また、小テストを行い、消化酵素についての学習内容の定着を図る。	2年			
	3年	○1学期の平均達成率は59.9%であった。基本事項や記録タイマーの活用、分析方法については、概ね理解することができている。 ▲イオンの学習に苦手意識をもつ生徒が見られる。	定期的に小テストを行い、イオンについての学習内容の定着を図る。また生徒が苦手意識を感じる部分については、時間をかけて丁寧な指導を行う。	3年			
思考・判断・表現	1年	○1学期の平均達成率は70.1%であった。実験結果から、考えを文章にすることができた。 ▲小数や分数の計算が課題である。	復習する機会を増やし、問題を解く機会をつくる。	1年			
	2年	○1学期の平均達成率は57.6%であった。実験結果から、自分の考えを深めることができている。 ▲スケッチに苦手意識をもつ生徒が見られる。	スケッチを行う前に、見本として良い例を生徒に見せる。その際に、スケッチの評価基準を生徒に明言する。	2年			
	3年	○1学期の平均達成率は51.6%であった。考察を自分の言葉で記述することができている。 ▲基本事項は理解できているが、それを生かして考えを深めることはできていない。	考察や課題に対する結論を記述する際にキーワードを示すなど、論述方法についての助言を与える。また授業内で問いに対して、考えを深めさせる機会を与える。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	○1学期の平均達成率は79.6%であった。プリントにメモをとる生徒が増えた。 ▲ノート提出・スタディサブリ・宿題などの提出物を忘れる生徒が見られた。	授業での声掛け、プリント掲示をして対応していく。	1年			
	2年	○1学期の平均達成率は69.1%であった。授業内のスライドの内容をノートに書ける生徒が増えた。 ▲プリントの記入が丁寧でない生徒が見られた。	プリントに記述する際に根気強く声掛けを行っていく。また、プリントの内容を見直し、生徒が答えやすいようにする。	2年			
	3年	○1学期の平均達成率は72.4%であった。プリントにメモをとる生徒が増えた。 ▲知識や思考力を活用することが得意な生徒、苦手な生徒で課題への取り組みへの意欲に差があった。	日常生活における具体例を示し、学習の必要性に気づかせる授業を展開する。また問いかけに対して生徒全員が反応できるよう、発問の工夫を行う。	3年			